

New  
Products

## オーエス

“どこでも発電” モバイルソーラー

### 携帯型太陽光発電機事業を強化 ラインナップも充実・拡大へ

東日本大震災では、オーエスが緊急災害用として開発した携帯型太陽光発電装置“どこでも発電”モバイルソーラー「GSR-110B」が各地で活用された。

“どこでも発電”というネーミングの通り、本商品は太陽に向けて簡単に向きが変えられる、日照がある場所にすぐに運べるなど、機動性に長けている。非結晶系のアモルファスをラミネートしたシート状になっているため、柔軟で曲げることも可能だ。「災害の初期に必要な照明や携帯電話、情報端末、トランシーバーなどに使われる電力は、小さくても大きな意味を持つ。どこでも移動できることは大きな力になる」とオーエスではそのメリットを強く訴える。

震災を通じ、「その有用性を改めて確認した」という同社では、災害への備えの重要性を訴えるとともに、“一家に一台”“事務所に一台”を合言葉に安心と安全をより広く届けるべく、同シリーズの本格的な開発体制と生産体制を整え、一層の市場浸透へ力を入れていく構えだ。また、お客様のニーズに合わせたプライベートブランドの開発やカスタマイズにも対応し、事業の柱と位置付け、展開する。

10月14日には新商品「GSR-111B」を発表した。実際に110Bを使用して寄せられた声を活かし、「バッテリー交換」「スマートフォン充電」「AC電源からの緊急充電」など、新たな機能が盛り込まれた。

アウトドアでの電源やイベントの補助電源としても活用できる。ニッケル水素充電池を内蔵しており、停電時の電源としても活用可能だ。サイズは510W×110H×85Dmm、質量は約2.8kgの軽量・コンパクトサイズが大きな特長のひとつ。

「連結ユニットやバッテリーパックを用意するなど、さらに多用途に使いやすくなっている。また、100Vで使用したいという意見も多く、大容量タイプも来年年明けには発表予定」としている。



オーエス  
“どこでも発電”モバイルソーラー  
「GSR-111B」  
オープン価格(4.5万円前後)  
10月14日発売(出荷開始は11月15日)